

# 二〇二四年十二月九日 成道会表白文

謹み敬つて十方三世の一切の三宝 殊には印度山日本寺本尊・釈迦如来の御室前に言して白さく  
方に今 印度国・ビハール・仏陀伽耶・日本寺本堂に於いて釈尊成道会の法要を厳修せしめんと欲す  
其の旨趣如何となれば 夫れ惟るに

大聖世尊は北天竺は迦毘羅（カピラ）城の太子として 四月八日 藍毘尼（ルンビニー）の苑に御生誕  
され 長ずるに及び 愈々（イヨイヨ）心身麗しく 思慮明晰たる青年にして 父王の後継たるを期待  
されしに 其の御心誰か察すらん

突如として出家され苦行林の朝な夕べ 刻苦精励の星霜（セイソウ）は凡夫の計らいを遙かに超過し  
その御身体は骨と皮にてわずかに支うのみ

然りと雖も 望むべき覚悟 未だ得ざりき 尼連禪河にて苦行の垢を清めし時 村邑（ソヌウ）の娘  
妙生女（スジャータ）乳粥を供養す その乳味 滋養を以って心身 転た（ウタタ）回復し 金剛の決  
意も新たに菩提樹下の禅定に入るや 十二月八日明けの明星の輝きの中に成道されたもう

之に依つて鹿野苑の初転法輪に始まり 王舎城は竹林精舎 靈鷲山 舍衛城は祇園精舎と 北天竺の  
各所に法筵（ホウエン）を敷き 三界の慈父として六趣の衆生を導き弟子を教化すること四十有余年  
その恩徳に預かりし者 算数の知るところにあらず誠に法転輪王（ホウテンリンノウ）たるべし

然れば即ち 今爰に成道会を修し 末学の弟子等 世尊の徳を追慕し その偉業を讃歎して 仏法興  
隆と衆生済度に心を尽くすことを誓わん

加うるにこの深き仏縁の下 先の災禍にて凶らずも逝去せし 善男善女を追悼し 頭を垂れて冥福を  
祈る

仰ぎ願わくは釈迦牟尼世尊 我等の赤心を洞鑑し 哀愍を垂れ護念し給わんことを

天下泰平 万民豊楽 災害復興 人心平安 乃至法界 平等利益

令和六年十二月九日

梵行沙門萌岳 敬白